

荒川左岸南部流域下水道通水 50 周年記念誌 発刊にあたって

荒川左岸南部流域下水道が通水してから 50 年の節目を迎えたことより、事業着手から現在に至るまでの変遷を記録し、当流域下水道が歩んできた歴史を後世へと引き継ぐために記念誌を発刊いたしました。

当時の出来事を振り返りながら、下水道事業の歴史をご覧になっていただければ幸いです。

さて、荒川左岸南部流域下水道は、昭和 47 年（1972 年）10 月に処理を開始し、令和 4 年（2022 年）10 月に 50 年を迎え、県内で最も歴史があります。また、流域下水道としては全国でも 2 番目の歴史を有し、処理水量は日本最大となっております。さいたま市、川口市、上尾市、蕨市、戸田市の県南 5 市、約 199 万人分の汚水を集め、荒川水循環センターで処理し、基準を満たすきれいな水にして荒川へ放流しております。

本県の流域下水道は、県庁全体の電力消費量における割合で見ると、約 43% を占めています。また、温室効果ガス排出量は県庁全体の約 55% に当たります。そこで、県下水道局では令和 4 年（2022 年）3 月に「埼玉県流域下水道地球温暖化対策実行計画（下水道 GX プラン）」を改訂し、2030 年までに 2013 年度比で温室効果ガスを 46% 削減、更に 50% の高みに向けて挑戦していくという目標を掲げました。

荒川水循環センターでは汚泥焼却時に温室効果ガス（一酸化二窒素）の排出が少なく、その廃熱で発電する機能が付いた焼却炉へ改築を行うなど、温暖化対策を着実に進めています。さらに、下水道には様々な未利用資源があり、その活用が求められていますが、日本最大級の処理量を誇る荒川水循環センターには、高いポテンシャルがあります。

下水道は、24 時間 365 日安定して稼働することが使命です。その上で、下水汚泥等の資源・エネルギーを活用した循環型社会、低炭素社会への貢献等の多様な役割を担っていくため、社会に求められる課題の解決にも挑戦していく必要があります。このような中、荒川左岸南部流域下水道には、このさきがけとなり、流域下水道の持続と進化をリードしていくことを期待しています。

今後とも、安定的・持続的な下水道事業の管理運営に努め、新たな課題に挑戦し進化してまいります。県民の皆様には、引き続き、埼玉県の流域下水道事業に対する御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



埼玉県下水道事業管理者
山崎 達也

荒川左岸南部流域下水道通水 50 周年記念誌 発刊にあたって

荒川左岸南部流域下水道通水 50 周年記念誌の発刊にあたり、一言御挨拶申し上げます。

埼玉県下水道公社は昭和 54 年（1979 年）2 月に設立され、同年 4 月に荒川左岸南部流域下水道の維持管理業務を埼玉県から受託したのを皮切りに、県内の各流域下水道の維持管理を担当してまいりました。

設立以来 45 年、当公社は荒川左岸南部流域下水道の歴史と共に歩んで来たと言っても過言ではありません。ここに関係者の皆様の長年にわたる格別の御理解と御支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

また、地域住民の皆様には、長年にわたり施設の運営に御理解を賜り、重ねて、深く感謝申し上げます。

この荒川左岸南部流域下水道の荒川水循環センターは、流域下水道の処理水量ランキングで日本一であり、これに続く 2 位、3 位も県内の新河岸川、中川の各水循環センターが占めています。当公社は日本で一番歴史のある下水道公社であるとともに、トップレベルの処理水量を誇っておりますが、これには事業発祥の地である荒川左岸南部流域下水道で培った維持管理の専門技術が大きな土台となっております。

当公社は事業主体である埼玉県の代行機関として、生活に不可欠な社会インフラである流域下水道を 24 時間 365 日、適切に維持管理を行うことが責務でございます。

今後とも、流域下水道の維持管理を通じて県民の皆様の快適な生活環境と水環境の保全に努めるとともに、下水道についての普及啓発活動、市町村への技術的支援、新たな課題である地球温暖化対策などにも、埼玉県と連携して取り組んでまいります。

結びに、50 年の歴史に輝かしい足跡を残された先人たちに改めて敬意を表すとともに、引き続き当公社に対しまして、格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



（公財）埼玉県下水道公社

理事長

末柄 勝朗

荒川左岸南部流域下水道通水 50 周年記念誌 発刊にあたって

荒川左岸南部流域下水道通水 50 周年記念誌の発刊にあたり、流域 5 市、下水道公社、併せて 50 周年記念事業の開催に御協力いただいたイオンリテール(株)など関係者の皆様方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

荒川左岸南部流域下水道は、昭和 47 年（1972 年）10 月に通水した県内で最も歴史のある流域下水道であり、令和 4 年（2022 年）10 月に節目となる 50 周年を迎えました。この流域下水道は当時、浦和市、大宮市、与野市及び戸田市で始まり、その後、昭和 49 年（1974 年）に川口市、昭和 50 年（1975 年）に上尾市、昭和 52 年（1977 年）に蕨市、そして昭和 58 年（1983 年）には鳩ヶ谷市と、処理区域を拡大してまいりました。

加えてこの間の人口増加もあり令和 4 年度（2022 年度）末の処理人口は、当初計画の約 15 倍となる約 199 万人、処理面積は、約 1 万 8,000ha と全国最大規模の流域下水道となりました。50 年の時間をかけ、ここまでの規模に拡大できたことは、ひとえに流域下水道事業に対する多くの皆様の御理解と御協力の賜物であると深く感謝申し上げます。

通水 50 周年事業としては、県と下水道公社それぞれ 1 か所、計 2 か所に荒川左岸南部流域下水道通水 50 周年を記念したデザインマンホール蓋を戸田市内に設置したほか、マンホールカードの発行や、デザインマンホール蓋のお披露目式を戸田市立荒川水循環センター上部公園にて開催し、併せて記念誌の発刊に取り組みました。この記念誌では、これまでの下水道事業の歩みを振り返るとともに、若手職員が描く下水道事業の未来像にも触れています。この記念誌が未来へのバトンを後世へと繋ぐ役割を果たすのではないかと期待しています。

さて、荒川左岸南部流域下水道の下水道普及率は令和 4 年度（2022 年度）末で 95.1% まで達しており、下水道事業の中心は建設や普及から、計画的な維持管理や老朽化施設の更新へ移行しております。

「良好な水環境の確保」と「県民の安全で快適な生活」を守ることは、下水道事業に携わる私たち最大の使命です。今後も安定的・持続的な下水道事業の管理運営に向けて、下水道公社や流域 5 市、関係団体と連携しながら、事業を運営してまいります。



荒川左岸南部下水道事務所長
坂田 竜也